

2010年12月12日

同志社大学大阪サテライト

日本中国語学会関西支部例会/ 中日理論言語学研究会 ミニシンポジウム

チノ語悠楽方言の「孤立性」と語順

林 範彦

神戸市外国語大学

E-mail: jinozu@yahoo.co.jp

1 はじめに

1.1 チノ語とは

地理的分布 : 中国雲南省西雙版納傣族自治州 (シブソンパンナー) 景洪市 (図1参照)

系統 : シナ・チベット語族チベット・ビルマ語派口口・ビルマ語支

方言 : 悠楽方言^{*1}・補遠方言

人口 : 20,899人 (2000年の人口統計) → 話者数はこの8割以下ではないか

1.2 「4つのテーマ」と方向性

- A: 中国語・カレン・チノ語の語順についてどんな基礎的な規則があるのだろうか → §3
- B: 中国語にはイレギュラーな語順 (一鍋飯吃五個人、下雨、吃食堂など) を持つ構文が時々見られるが、カレン語とチノ語にはそのような現象はあるかどうか → §5
- C: SVO^{*2}型の言語では、語順の機能を最大限に発揮できるのだが、SOV型のチノ語では、孤立性をある程度持っているということはどういうことなのだろうか → §3, §5
- D: 孤立性とは何か → §2

^{*1} [チノ語悠楽方言の音素目録]

チノ語の音素目録は、[子音] /p, ph, t, th, k, kh; ts, tsh, tʃ, tʃh, tɕ, tɕh; m, m̥, n, n̥, ŋ, ŋ̊; l, l̥; f, v, s, z, ʃ, r, ɕ, j, x, ɣ; (w) /, [母音] /i, e, ø, ε, œ, a, ə, ɔ, ɤ, o, u, u/ である。声調素は /55, 44, 33, 35, 42/ である。音節構造は頭子音 + 介音 + 主母音 + 末子音/声調で構成される。またチノ語では m, m̥, n, n̥ が成節鼻音 (syllabic nasal) となりうる。

なお、本文中で同じ形態素ながら調値が相互に異なることがある。これらは環境によって声調が交替する場合である。その場合、本文中で引用する際、声調を表記しないことがある。

更に、チノ語文法の言語類型論的特徴としては以下のとおりである。基本語順は SOV で、形容詞は名詞の後ろから修飾し、関係節は名詞の前から修飾する。チノ語は膠着性の高い言語であり、動詞が述部となる際、動詞語根を中心に多くの接尾辞類・接頭辞類が付加しうる動詞複合形式 (verbal complex) を構成する。

以上、音韻ならびにチノ語文法全体に関する概要については林 (2006, 2009) を参照されたい。

^{*2} 「主語」「目的語」の用語を定義するのは難しいが、言語類型論上の比較を行う際、基本的には Dixon (1994) の挙げている S (自動詞主語), A (他動詞主語), O (他動詞目的語) をベースに考察を進めることが多いかと思われる。本発表では、扱う言語が主格・対格型言語であるため、Dixon (1994) の 'A' も 'S' で表す。

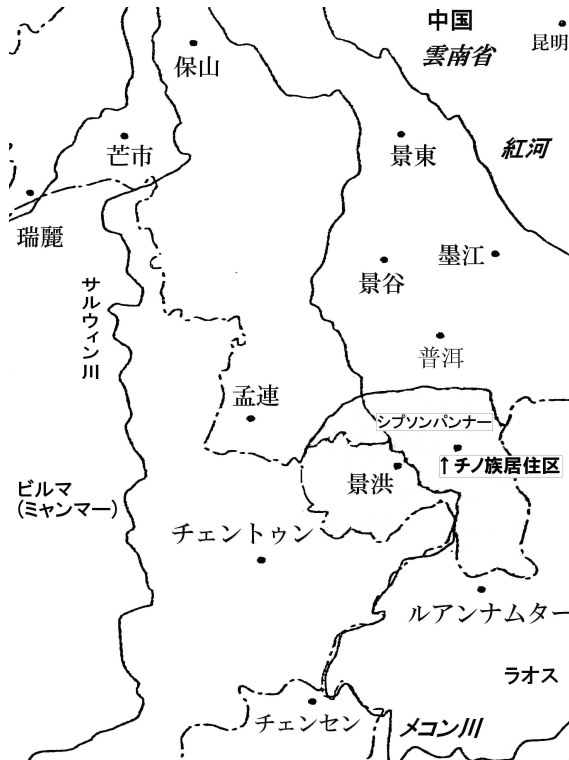


図1 チノ族居住区の位置

2 孤立性とは何か — 言語の「孤立度」

2.1 「孤立語」の基準と性格

■ 形態論的類型論の基準

- Sapir (1922: 123)

‘A language may be both agglutinative and inflective, or inflective and polysynthetic, or even polysynthetic and isolating, as we shall see a little later on.’

- Dixon (2010: 226–228) → Set A と Set B の組み合わせ

Set A: Isolating, Agglutinating (or Agglutinative), Fusional

Set B: Analytic, Synthetic, Polysynthetic*³

Whaley (1997: 127–148)

index of synthesis (総合の指標): 形態法における接辞の多用

index of fusion (融合の指標): 個々の形態素の機能的分解がいかに容易か

→ 総合度や融合度に応じた形態論的類型論は元来連続的性格を内在させる

*³ Dixon (2010: 228) で ‘polysynthetic’ という用語は不必要で、邪魔者である、と述べている。

■ 「孤立語」の共有する特徴 (Whaley 1997)

声調言語

関係明示表現が介在しない動詞連続構造をもつ

東南アジアに偏在 → 地域的特徴という可能性もあり

「主要な意味役割を表す語がなく、これらの意味役割は語の配列順によって表示される」

(風間ほか 2004: 69)

「文法的意味は語順によって示される」(齊藤 2010: 66)

2.2 チノ語悠楽方言の名詞句構造と動詞複合形式

■ 名詞句構造

表 1 チノ語の名詞句構造 (モデル)

指示詞	名詞	数量詞句	後置詞
(Dem)	(N)-(Suf)	(NUM)-(CL)-(Suf)	=(Post)

Dem: 指示詞, Suf: 接尾辞, NUM: 数詞, CL: 類別詞, Post: 後置詞*4

表 2 後置詞の種類と機能

種類	機能	種類	機能
=ɣ ⁴⁴	強調	=jo ⁴⁴	同等比較
=ɛ ⁴⁴	所有者	=the ⁴⁴	随伴者
=va ⁵⁵	場所、方向、被動者、受領者など	=la ⁵⁵ <II>	要約
=la ⁵⁵ <I>	手段、道具	=lœ ⁴⁴	列挙
=jo ⁴⁴	共同者、起点、奪格		

■ 動詞複合形式

表 3 チノ語の動詞複合形式 (モデル)

(prev)-(pref₁)-(pref₂)-(pref₃)-[VERB]-(acp)-(B/R)-(T/A₁)-(T/A₂)-(caus)-(aux₁)-(aux₂)-(T/A₃)-(still)-(T/A₄)

[動詞複合形式の各スロットに入る形態素] → 各形態素は選択的に共起

- (1) a. prev: tɛ⁴²-, jo- (「とても〜」), tɣ- (「もっと〜」), ku- (「また〜」)
- b. pref₁: a₁- (名詞化), ma- (否定), thə- (禁止), a₂- (禁止)
- c. pref₂: pi-, khø-, ja- (使役接辞)
- d. pref₃: m- (使役接辞)
- e. acp: -khjo (達成)
- f. B/R: -mə (ben, 受益), -ji (rcp, 相互)

*4 チノ語悠楽方言の後置詞と格の関係については林 (2010) を参照されたい。

- | | |
|--|--|
| g. T/A ₁ : -kɔ (進行) | k. aux ₂ : -ŋu (「～したい」),
-mɔ (「～のようだ」) |
| h. T/A ₂ : -tɔ (経験) | l. T/A ₃ : -mɔ (過去), -me (未来) |
| i. caus: -vi (使役接辞) | m. still: -su (「まだ～」) |
| j. aux ₁ : -khju (「～できる」),
-tɕe (「あえて～する」) | n. T/A ₄ : -a (完了) |

⇒ 形態的特徴をベースに考えると、チノ語悠楽方言は「孤立語」にはならない

3 基本語順と格標示

3.1 基本語順: SOV

- | | |
|--|---|
| (2) a. ŋɔ ⁴² khɣ ³⁵ khu ³³ -nɔɛ ⁴⁴ .
1SG.NOM 3SG.OBL 呼ぶ-SFP
「私は彼/彼女を呼ぶ。」 | (3) a. ki ⁵⁵ ki ⁴⁴ tɕu ³⁵ ma ⁴⁴ jɔ ³⁵ -mɔ ³⁵ .
叔父 叔母 叱る-PAST
「叔父が叔母を叱った。」 |
| b. khɣ ⁴² ŋɔ ³⁵ khu ³³ -nɔɛ ⁴⁴ .
3SG.NOM 1SG.OBL 呼ぶ-SFP
「彼/彼女は私を呼ぶ。」 | b. tɕu ³⁵ ma ⁴⁴ ki ⁵⁵ ki ⁴⁴ jɔ ³⁵ -mɔ ³⁵ .
叔母 叔父 叱る-PAST
「叔母が叔父を叱った。」 |

(2): 主語・目的語ともに代名詞 → 声調等による関係明示 (格標示)*⁵

(3): 主語・目的語ともに名詞 → 語順による関係明示 (格標示)*⁶

3.2 文法関係と関係明示標識 (格標識): =va⁵⁵(~a⁵⁵)

=va⁵⁵(~a⁵⁵): non-subject marker としての機能
→ 意味役割としては「被動者」「場所・着点」等

*⁵ チノ語悠楽方言の代名詞を一覧にして示すと、以下のようになる。

	単数		双数		複数	
	主格	斜格	主格	斜格	主格	斜格
		所有格				対格
1 人称	ŋɔ ⁴²	ŋɔ ³⁵ ŋɔ ³³ ɛ ⁵⁵ ŋɔ ³⁵	a ³³ ŋi ⁵⁵ / ŋa ⁵⁵ ŋi ⁵⁵	a ³³ ŋi ⁴²	a ³³ ŋu ⁵⁵ (INCL) ŋa ⁵⁵ vu ⁴⁴ (EXCL)	a ³³ ŋu ⁴² /ŋu ⁵⁵ (INCL) ŋa ⁵⁵ vɛ ⁵⁵ (EXCL.POSS)
2 人称	nə ⁴²	nə ³⁵ nɛ ³⁵ nə ³⁵	ŋi ⁵⁵ ŋ ⁴⁴	ŋi ⁵⁵ ŋi ⁴²	ŋi ⁵⁵ ju ⁴⁴	ŋi ⁵⁵ vɛ ⁵⁵ ŋi ⁵⁵ ju ³⁵
3 人称	khɣ ⁴² / thu ⁴²	khɣ ³⁵ /a ⁵⁵ ŋɔ ³⁵	khɣ ³³ ŋi ⁵⁵	khɣ ³³ ŋi ⁴²	khɣ ³³ m̄a ⁵⁵ /jo ³³ m̄a ⁵⁵	khɣ ³³ m̄a ⁴² /jo ³³ m̄a ⁴²

*⁶ 名詞も最終音節の声調を 35 調あるいは 42 調にすることによって、斜格を標示することができる。

< 被動者 > — 有生名詞にのみ =va⁵⁵ 後置可能

- (4) a. ki⁵⁵ki⁴⁴ tɕu³⁵ma⁴⁴=va⁵⁵ jə³⁵-mɤ³⁵. 「叔父が叔母を叱った。」 (= 3a)
叔父 叔母=VA 叱る-PAST
- b. tɕu³⁵ma⁴⁴ ki⁵⁵ki⁴⁴=va⁵⁵ jə³⁵-mɤ³⁵. 「叔母が叔父を叱った。」 (= 3b)
叔母 叔父=VA 叱る-PAST
- (5) a. fao³³li³³ fao³³wanj³⁵=∅/ =va⁵⁵ tɕa³⁵-mɔ̄⁴⁴-nɔ̄⁴⁴. 「李さんは王さんに嫁ぐ。」
李さん 王さん=VA 嫁ぐ-BEN-SFP
- b. fao³³li³³ khw⁵⁵ni⁵⁵=∅/ =va⁵⁵ ka⁵⁵+zɔ³⁵+ja⁴²-nɔ̄⁴⁴. 「李さんは犬を追い払った。」
李さん 犬=VA 追う+歩く+行く-SFP
- (6) a. khw⁵⁵zɔ⁵⁵ ji³³tʃho⁵⁵=∅/ *=va⁵⁵ tɔ̄³⁵-mɤ⁵⁵. 「子犬が水を飲んだ。」
子犬 水=VA 飲む-PAST
- b. ji³³tʃho⁵⁵=∅/ *=va⁵⁵ khw⁵⁵zɔ⁵⁵ tɔ̄³⁵-mɤ⁵⁵. 「水は子犬が飲んだ。」
水=VA 子犬 飲む-PAST

< 場所・着点 >

- (7) a. khɤ⁴² tɛ³⁵=va⁵⁵ lo³³pu³⁵ a³³pru⁵⁵ kə³³-kɔ̄⁵⁵.
3SG.NOM 畑=VA 大根.OBL 苗 抜く-PROG
「彼/彼女は畑で大根の苗を間引いている。」
- b. ɕi⁵⁵-lo⁴⁴ u³³khə⁵⁵lɔ̄⁵⁵=a⁴⁴ mɔ̄³³-tʃə⁵⁵-khju⁵⁵-a⁴⁴.
これ-ように 山頂=VA NEG-生きる-AUX-PART
「(タイ族は) このように山の上で生きていくことができない。」
- c. ŋɔ̄⁴² ɕiŋ³³xoŋ⁴⁴=va⁵⁵ le⁴⁴-nɔ̄⁴⁴.
1SG.NOM 景洪=VA 行く-SFP
「私は景洪に行く。」

4 語順と情報構造

■ 旧情報から新情報へ/ 重要度の低い情報から高い情報へ

- (8) a. a³³tshɤ³⁵=jə⁴⁴=ɛ⁵⁵ a³³ɕɔ̄⁴², a³³ɕɔ̄³⁵=jə⁴⁴=ɛ⁵⁵ a⁵⁵tshen⁴⁴, a⁵⁵tshen⁴⁴=jə⁴⁴=ɛ⁵⁵
10.OBL=より =POSS 100 100.OBL=より =POSS 1000 1000=より =POSS
a⁵⁵van³⁵.
10000.OBL
a⁵⁵van³⁵=jə⁵⁵=ɛ⁴⁴=ɤ⁴⁴ n̄⁵⁵tshen⁴⁴ sɔ̄⁵⁵tshen⁴⁴van³⁵ khɤ³³-lo³³
10000.OBL=より =POSS=EMPH 2000 3000万.OBL あれ-ように
ŋw³⁵+ja⁵⁵-ɔ̄⁴⁴-nɔ̄⁴⁴.
COP+ いく -PART-SFP
「十から百、百から千、千から万だ。万からは2000万、3000万という風になるんだ。」

- b. A: thi⁵⁵ma⁵⁵ mo⁵⁵-su⁵⁵-a⁵⁵. ji⁵⁵fi⁵⁵ jo³³kha³³-ma⁵⁵ tʃhə⁴⁴-mə⁴⁴=ε⁵⁵-nœ⁴⁴,
 多い NEG-知る-PART 昔 老人-PL 語る-BEN=POSS-SFP
 ko³³-tʃi⁵⁵ ko³³-tʃi⁵⁵ su⁵⁵-a⁵⁵.
 それぞれ-少し それぞれ-少し 知る-PART
 B: pa⁵⁵kha⁴²=ɣ⁴⁴ thi⁵⁵-ço⁴⁴ ŋ⁵⁵-ço⁴⁴ tʃhə⁴⁴-khju⁵⁵-a⁴⁴ tʃə³³-su⁵⁵=ε⁴⁴.
 パカー=EMPH 1-CL 2-CL 語る-AUX-PART いる-まだ=POSS
 A: 「(昔話の)多くは分からない。昔の老人たちが(私たちに)語ってくれたけど、少しだけ理解したわ。」
 B: 「パカーは1人2人(昔話を)語るができるのがまだいるよ。」

■ 'right dislocation'/ afterthought

- (9) a. li³³pai³⁵thjen⁴⁴-a⁴⁴ kai⁵⁵tsi⁵⁵=a⁴⁴ lə⁴⁴ je³⁵-a⁴⁴ ŋu³³-mε⁵⁵, ŋa⁵⁵vu⁴⁴.
 日曜日-PART 市場=VA ずっと行く-PART COP-PAST 1PL.EXCL.NOM
 「日曜部にはね、市場にいつも行ってたよ、私たち。」
 b. khɣ⁴⁴tʃao³⁵kuaŋ⁴⁴-mɣ⁴⁴ khao⁴²a⁵⁵mi⁴⁴xo⁵⁵=ε⁴⁴-jo⁴⁴?
 あれ レントゲンを撮る-NML 何 言葉 しゃべる=POSS-PART
 mo³³-ŋo⁵⁵+su⁵⁵-khju⁵⁵-a⁴⁴, ŋo⁴².
 NEG-聞く + 知る-AUX-PFT 1SG.NOM
 「あのレントゲン撮影をした人は何語をしゃべっていたのかしら? 聞いても分からなかったわ、私。」
 c. mu⁵⁵-a⁴⁴=ɣ⁴⁴, ja⁵⁵khu⁴⁴. pa⁵⁵kha⁴⁴-ma⁵⁵ pa⁵⁵lai⁴⁴-ma⁵⁵ khə⁵⁵mo⁴⁴-ma⁵⁵=lœ⁴⁴
 吸う-PART=EMPH タバコ パカー-PL パライ-PL 女-PL=も
 mu⁵⁵-a⁴⁴.
 吸う-PART
 「吸うよ、タバコ。パカーやパライの女たちも吸うよ。」
 d. a⁵⁵tʃen⁴⁴ tɛ⁵⁵-to⁴⁴-ε⁴⁴ tʃhɣ³³-a⁴⁴, ten³⁵fi³⁵.
 アチェン 見る-EXP-POSS 似ている-PART テレビ
 「アチェンは見てみたいね、テレビを。」

5 言語外的知識と語順・名詞句の文内認可

■ 「話題」の文内位置 — 言語外的知識と情報構造

(10)→ 「食べる」動作主は言語外的知識から判明

- (10) a. a⁵⁵mε⁵⁵ ŋu⁵⁵vu⁴⁴ tso⁵⁵-khjo³⁵-o⁴⁴-nœ⁴⁴.
 ご飯 1PL.NOM 食べる-ACP-PART-SFP
 「ご飯は私たちが食べてしまった。」
 b. xo⁵⁵mε⁵⁵tʃe⁴⁴ xo³³tʃha⁵⁵ khju⁵⁵+tso⁵⁵-khjo³⁵-o⁵⁵-nœ⁴⁴.
 米 ネズミ 盗む + 食べる-ACP-PART-SFP
 「米はネズミがこっそり食べつくしてしまった。」
 c. ŋo⁵⁵jo⁵⁵ jo³³mε⁵⁵ khju⁴⁴+tso³⁵-o⁵⁵-nœ⁴⁴.
 魚 猫 盗む + 食べる-PART-SFP
 「魚は猫がこっそり食べてしまった。」

(11a)→ 言語外的知識から「鳥は人間を飛ばさない」ことは明確

(11b)→ 言語外的知識から「生徒が先生を叱ること」はまれ

- (11) a. ŋa³³zɔ⁵⁵=∅/ =va⁵⁵ fao³³li³³ m³³-pre³⁵+ja⁴²-noe⁴⁴.
鳥=VA 李さん CAUS-飛ぶ + 行く-SFP
「鳥は李さんが飛ばした。」
b. fao³³waj³⁵=∅/ =va⁵⁵ lao³³si⁵⁵ jə³⁵-mɣ³⁵.
王さん=VA 先生 叱る-PAST
「王さんは先生に叱られた。(=王さんを先生は叱った。)」

■ いわゆる pivot construction の名詞句解釈

(12)→ 動詞連続構造: 「原因」+「結果」のセット

- (12) a. lo³³phu⁵⁵ a⁵⁵pu⁴⁴ tɕu⁵⁵+lai³⁵-ɔ⁵⁵-noe⁴⁴.
椀 父 こける + 壊れる-PART-SFP
「お椀は父がこけて壊した。」
b. mi⁵⁵kho⁵⁵ mi⁵⁵tsho⁵⁵ kha³³+na³⁵-ɔ⁵⁵-noe⁴⁴.
若い女性 太陽 さらす + 黒い-PART-SFP
「若い女の子が太陽にさらされて黒くなった。」
c. lə⁵⁵tsho⁵⁵ mi³³tha⁵⁵ tɕe⁵⁵+tɕe³⁵-ɔ⁵⁵-noe⁴⁴.
ズボン 雨 濡れる + 濡れる.RDP-PART-SFP
「ズボンが雨に濡れてしまった。」

■ 意味的関連性による付加詞的名詞句の文内認可

(13)→ 付加詞的名詞句 (下線部) の認可

- (13) a. khɿ⁴² (a³³khju⁵⁵) khju³⁵+ja⁴²-noe⁴⁴.
3SG.NOM やせている やせる + いく-SFP
「彼/彼女はやせてきた。」
b. zɔ⁵⁵ku⁵⁵ (jɔ³³mjo⁵⁵) mjo³⁵+lu⁴²-a⁴⁴-noe⁴⁴.
子供 高い 高い + くる-PFT-SFP
「子供は(背が)高くなってきた。」
c. nə⁴² (a⁵⁵mɛ⁵⁵) mɔ⁵⁵-la⁴²?
2SG.NOM ご飯 飢えている-Q
「あなたはおなかがすいたのですか?」

6 他のチベット・ビルマ諸語(口口・ビルマ諸語)の問題

■ ツアイワー語(中国雲南省・ビルマ北部、徐・徐 1984: 137-139)

主語・目的語 → とともに有生名詞のとき

目的語助詞 lɛ⁵⁵ → 随意的

— 基本語順(SOV)の遵守

- (14) jaŋ³¹ tsɔ̃³¹ nu⁵⁵ (lə̃⁵⁵) ʃup⁵⁵.
 3SG 赤ん坊 PART 眠る
 「彼は赤ん坊を寝かせる。」

目的語の強調 → 主語に対して前置することあり

(15a)—lə̃⁵⁵ で標示する

(15b)— 標示なし

- (15) a. khui³¹ lə̃⁵⁵ jaŋ³¹ pat³¹ sat³¹ pe⁵¹.
 犬 PART 3SG 殴る 殺す PART
 「犬は彼に殴り殺された。」(徐・徐 1984: 138)
- b. vo^{ʔ31} tso³¹ tsun³¹ ju⁵¹ tso³¹ pe⁵¹.
 ひよこ 鷹 取る 食べる PART
 「ひよこは鷹に捕らえられて食べられた。」(徐・徐 1984: 138)

■ アチャン語 (中国雲南省・ビルマ北部、戴・崔 1985: 71)

- (16) a. ŋɔ̃⁵⁵ ɲaŋ³¹ te⁵⁵ kzə̃⁵⁵.
 1SG.NOM 3SG.OBL PART 呼ぶ
 「私は彼を呼ぶ。」(戴・崔 1985: 71)
- b. pum⁵⁵ xui³¹ te^{ʔ55} sat⁵⁵ pɔ̃³¹.
 狼 父 撃ち殺す PART
 「狼は父に撃ち殺された。」(戴・崔 1985: 71)

目的語標示 → te⁵⁵

(16b)→te⁵⁵ が生起せず

⇒ 「狼が父を撃ち殺した」? / 「狼は父に撃ち殺された」?

■ リス語 (中国雲南省・タイ北部・ビルマ北部、Hope 1974: 7)

[話題] nya [評言]

- (17) a. làma nya ána khù-a
 虎 TOP 犬 咬む-DEC
- b. ána nya làma khù-a
 犬 TOP 虎 咬む-DEC
 「虎が犬を咬む。」もしくは「犬が虎を咬む。」

7 おわりに — 文法関係の解釈装置と語順 —

- シルバースティーンの名詞句階層 (Silverstein 1976)

代名詞 (1 人称 > 2 人称 > 3 人称) > 名詞 (親族名詞・固有名詞 > 人間名詞 > 動物名詞 > 無生物名詞 (自然の力の名詞 > 抽象名詞・地名))

- 角田 (2009 [1991])

文法分析に必要な 4 つのレベルの区別

- a: 意味役割 (semantic roles)
- b: 格 (cases)
- c: 情報構造 (information structure)
- d: 統語機能 (syntactic functions, etc.)

表 4 チノ語悠楽方言の語順の原型: まとめ

要素解釈レベル	<1>	<2>	V
[文法関係]	S	O	V
[意味役割]	動作主	被動者/ 主題	V
[情報構造]	話題	焦点	V

[逆能格性 (anti-ergativity)] (LaPolla 1992, 2004)

→ 主語と目的語の非曖昧化 (disambiguation)

[チノ語悠楽方言]: 生物名詞句の並列の際、目的語に =va⁵⁵ を付加

— inverse (反転/逆向) 的な =va⁵⁵ の付加規則*7

*7 以下のように、言語外的知識から「先生が生徒を叱る」構造が名詞句の階層 (先生 > 生徒) を作り出しているとするれば、それと逆向する名詞句の並列があった場合、目的語側に =va⁵⁵ を義務的に付加する。

a) tʃaj⁵⁵lao³³si⁵⁵ tɕe³³phu⁵⁵ thi⁵⁵phrə⁴⁴ tə⁴², thi⁵⁵phrə⁴⁴ tɕaj⁵⁵-ko³⁵-mɿ⁵⁵. khy³³-lo⁵⁵
 張先生 酒 一方で 飲む 他方で 教える-PROG-PAST それのように
 ŋu⁵⁵-vu⁵⁵, fao³³waŋ³⁵ tʃaj⁵⁵lao³³si⁵⁵=∅/ =va⁵⁵ jə³⁵-mɿ³⁵.
 COP-ので 王さん 張先生=VA 叱る-PAST

b) tʃaj⁵⁵lao³³si⁵⁵ tɕe³³phu⁵⁵ thi⁵⁵phrə⁴⁴ tə⁴², thi⁵⁵phrə⁴⁴ tɕaj⁵⁵-ko³⁵-mɿ⁵⁵. khy³³-lo⁵⁵ ŋu⁵⁵-vu⁵⁵,
 張先生 酒 一方で 飲む 他方で 教える-PROG-PAST それのように COP-ので
 tʃaj⁵⁵lao³³si⁵⁵*=∅/ =va⁵⁵ fao³³waŋ³⁵ jə³⁵-mɿ³⁵.
 張先生=VA 王さん 叱る-PAST

「張先生は酒を飲みながら、授業した。だから王さんは張先生を叱った。」

表5 チノ語悠楽方言の「孤立性」と語順

[チノ語悠楽方言の語順と文法関係]
有生名詞句の並列 → 語順による文法関係の判断
有生名詞句と無生名詞句の配置 → 意味役割・言語外的知識による判断
[チノ語悠楽方言の「孤立性」]
声調言語
動詞連続構文の存在
一部に語順による文法関係の判断あり

[補足: 先行研究 — 蓋 (1986)]

蓋 (1986: 95) より

「文の要素の文内位置によると、チノ語は「主語-述語」文、「主語-賓語-述語」文、「主語-述語-補語 (あるいは、主語-補語-述語)」、そして「主語-述語-補語」文に大方分かれる。チノ語は少なからず形態変化をいまだ保存しているため、賓格の形態変化を伴った賓語が置かれた位置が変換されたものなら、「主語-述語-賓語」あるいは「賓語-述語-主語」などの文型が現れることがあるが、当然その中でも漢語の影響を受けたものが含まれる。」

蓋 (1986: 103) より

「チノ語の中の語順は一種極めて重要な文法上の手法であり、一般的にはそれぞれの文の成分の位置はすべて固定されている。チノ語はまだ比較的多くの形態的な手法を残し、声調変化を用いて異なる文法的な意味を表すので、ある文型の語順の変化はやや活発であるが、文の意味には決して影響しない。」

略号一覧

文頭の * は非文であることを示す。また ‘-’ は接辞類・助詞類の境界を、‘=’ は倚辞の境界を、‘+’ は語根の境界を表す。

ACP	達成	EXP	経験
AUX	助動詞	NEG	否定
BEN	受益	INCL	包括形
CAUS	使役	NML	名詞化
CL	類別詞	NOM	主格
COP	コピュラ	NUM	数詞
DEC	平叙的	OBL	斜格
EXCL	除外形	PART	助詞
EMPH	強調	PAST	過去

PFT	完了	SFP	文終止助詞
PROG	進行相	SG	単数
PL	複数	TOP	話題
POSS	所有	VA	=va ⁵⁵ (対格、与格、場所格など)
Q	疑問		
RDP	重複		

参考文献

- 戴慶廈 (Dài Qìngxià)・崔志超 (Cuī Zhìchāo) 1985. << 阿昌語簡誌 >> 北京: 民族出版社.
- Dixon, Robert Malcolm Ward 1994. *Ergativity*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 2010. *Basic Linguistic Theory 1: Methodology*. Oxford: Oxford University Press.
- 蓋興之 (Gài Xìngzhī) 1986. << 基諾語簡誌 >> 北京: 民族出版社.
- 林 範彦 2006. 「チノ語悠楽方言」中山俊秀・江畑冬生(編)『文法を描く1 フィールドワークに基づく諸言語の文法スケッチ』pp. 243–270. 府中: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 2009. 『チノ語文法(悠楽方言)の記述研究』(神戸市外国語大学研究叢書第43冊)神戸: 神戸市外国語大学外国学研究所.
- 2010. 「チノ語悠楽方言の格体系」澤田英夫(編)『チベット=ビルマ系言語から見た文法現象の再構築1: 格の体系とその周辺』pp. 269–286. 府中: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- Hope, Edward Reginald 1974. *The Deep Syntax of Lisu Sentences —A Transformational Case Grammar—*. Pacific Linguistics Series B-No.34. Canberra: Department of Linguistics, Research School of Pacific Studies, The Australian National University.
- 風間喜代三・松村一登・上野善道・町田健 2004. 『言語学 第2版』東京: 東京大学出版会.
- LaPolla, Randy 1992. ‘Anti-ergative’ marking in Tibeto-Burman. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area*. Vol. 15. No.1.: 1-9.
- 2004. On Nominal Relational Morphology in Tibeto-Burman. In Ying-chin Lin et. al. (eds), *Studies on Sino-Tibetan Languages: Papers in Honor of Professor Hwang-Cherng Gong on His Seventieth Birthday*. pp. 43-73. Taipei: Academia Sinica.
- 斎藤純男 2010. 『言語学入門』東京: 三省堂.
- Sapir, Edward 1921. *Language*. New York: Harcourt Brace Co.(安藤貞雄 [訳])

1998. 『言語 —ことばの研究序説—』 東京: 岩波書店.)
- Silverstein, Michael 1976. Hierarchy of features and ergativity. In R. M. W. Dixon (ed.), *Grammatical Categories in Australian Languages*. pp. 112-171. Canberra: Australian Institute of Aboriginal Studies.
- 角田太作 2009. 『世界の言語と日本語 (改訂版) — 言語類型論からみた日本語 —』 (初版は 1991 年) 東京: くろしお出版.
- Whaley, Lindsay J. 1997. *An Introduction to Language Typology: The Unity and Diversity of Language*. Thousand Oaks, California: Sage.
- 徐悉艱・徐桂珍 (Xú Guìzhēn) 1984. << 景頗語語言簡誌 (載瓦語)>> 北京: 民族出版社.

[謝辞]

本研究はチノ語悠楽方言の話者である王阿珍 (1980 年生、女性) をはじめ、多くのチノ族の皆さん、並びに雲南民族大学・雲南民族博物館などのご協力に支えられています。この場をお借りし、心から感謝申し上げます。

また、チノ語悠楽方言の現地調査による記述研究は以下の援助を受けています。ここに記して深謝いたします:

日本学術振興会科学研究費補助金 (特別研究員奨励費 [DC2, PD], 2003-2007), 日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 S) 「チベット文化圏における言語基層の解明—チベット・ビルマ系未記述言語の調査とシャンシュン語の解読—」 (研究代表者 長野泰彦, 2004, 2007, 2008), 日本学術振興会科学研究費補助金 (若手研究 B) 「チノ語の記述調査と言語接触・言語類型論から見た東南アジア諸語研究」 (研究代表者 林 範彦, 2009, 2010)